

【コンクリート舗装の施工】

Q：スリップフォーム工法によりコンクリート版の舗設を行う場合、縦目地のタイバー等の設置はどのように行うのですか？また、打ち込み目地の施工はできるのですか？

A： 縦目地のタイバー等の設置方法には、セットフォーム工法と同様に予めねじ付タイバーあるいはねじ付ダウエルバーをチェア、クロスバーに固定したバーアッセンブリとして路盤上に設置する方法と、サイドバーインサータ付のスリップフォームペーパーを使用して、サイドバーインサータにより縦目地側面にバーを圧入する方法があります。

現在までの国内での実績は、前者のバーアッセンブリとして路盤上に予め設置する方法がとられています。この場合、バーのソケットがスリップフォームペーパーのサイドプレートに当たらないように、バーアッセンブリの設置位置をサイドプレート通過位置より1～2cm程度内側にし、サイドプレート通過後にバーのソケット位置を掘り出す方法としています。なお、バーのソケット位置をわかりやすくする方法として、ソケット部にゴムホース等を取り付ける場合もあります。

SF工法の場合、型枠のない状態では振動目地切り機が使用できないため、セットフォーム工法と同様な打ち込み目地の施工は行えません。このため、現時点では打ち込み目地位置のカッター切削の施工をできるだけ早期に行い、収縮ひび割れを所定の横目地に誘発する方法が考えられています。(協会機関誌第18号)

Q：SF工法により鉄網入りコンクリート版を舗設する場合は、どのように施工するのですか？

A： SF工法でコンクリート版の舗設を行う場合は、施工の合理性から横収縮目地間隔を5～6m程度に狭くして、鉄網を用いずに1パスで舗設するのが望ましい方法といえます。ただし、やむを得ず鉄網入りのコンクリート版を施工する方法としては、コンクリートを2層で敷きならす方法と、鉄網を予めスペーサ等を用いて設置し1層で敷きならす方法があります。

コンクリートを2層で敷きならす方法は、下層コンクリートを敷きならした上に鉄網を人力で敷設して上層コンクリートを敷きならし、締め固めて仕上げる方法となります。したがって、この方法では下層用と上層用の2台の機械が必要となります。

鉄網を路盤上に設置する方法は、鉄網を固定するスペーサやずれ止め筋などによる補強が必要と考えられます。(協会機関誌第18号)